

2019 年度
学生支援評価分科会
点検・評価報告書

創価大学

第7章 学生支援

(1) 現状の説明

点検・評価項目①：学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

評価の視点1：大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針の適切な明示

本学では、建学の精神に基づく「創造的世界市民」の育成を教育目標とし、そのために学生が学修に専念し、安定した生活を送れるよう以下の通り、「創価大学学生支援ポリシー」として、修学支援、生活支援および進路支援の各分野について方針を定め、ホームページや学生生活ハンドブックなどで公表している。

<学生支援ポリシー>

○修学支援

1. 学生の学習能力の開発・向上を図り、学習活動の充実・活性化を促進するために、学習環境を充実させ、学習支援サービスを提供する。
2. 障がいのある学生の修学を支援するため、学生から要望があり、配慮が必要であると認められた場合は、教職員と連携し支援を行う。
3. 修学の継続に困難を抱える留年者や成績不振者などの学生に対して、学習方法や履修に関する面談などの支援を教職員が行う。
4. 多彩な留学制度等を設け、学生が国際性を身につけることのできるよう支援を行う。

○生活支援

1. 学生の心身の健康の保持増進のために環境を整備する。
2. 学生の人権を保障するため、キャンパス・ハラスメントの防止のための対策を行う。
3. 学生の経済的状況に応じ相談体制を整備し、大学独自の奨学金および学外奨学金等の支援、スチューデントアシスタント制度の充実、アルバイト紹介システムを通じた紹介を実施する。
4. 寮生活、クラブ活動およびボランティア活動等の課外活動において、学生が人間性を培うことのできる環境を整備する。
5. 「学生生活ポリシー」を公表し、学生に求められるもの、学生生活で留意すべきことを学生に提示する。

○進路支援

1. キャリアデザインを実践的に行うことを目的としたキャリア教育科目を設置し、支援を行う。
2. 多様な学生状況に応じて教職員などによる個別の進路相談を行う。
3. 国家試験、教員採用試験や各種資格試験の合格を目指す学生に対して支援を行う。
4. 在学生によるピアサポート、卒業生によるサポートを通じて、就業力の強化、進路支援の拡充を行う。

点検・評価項目②：学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

評価の視点1：学生支援体制の適切な整備

評価の視点2：学生の修学支援に関する適切な支援の準備

- ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育
- ・正課外教育
- ・障害のある学生の状況把握と修学支援
- ・成績不振の学生の状況把握と指導
- ・留年者及び休学者の状況把握と対応
- ・退学希望者の状況把握と対応
- ・奨学金その他の経済的支援の整備

評価の視点3：学生の生活に関する適切な支援の実施

- ・学生の相談に応じる体制の整備
- ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備
- ・学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮
- ・留学生の多様なニーズへの支援

評価の視点4：学生の進路に関する適切な支援の実施

- ・学生のキャリア支援を行うための体制（キャリアセンターの設置等）の整備
- ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施
- ・留学生のキャリア支援

評価の視点5：学生の正課外活動を充実させるための支援の実施

評価の視点6：その他、学生の要望に対応した学生支援の適切な実施

<学生支援体制の適切な整備>

前述した学生支援ポリシーの方針の下に、主に修学支援に対応しているのが学習支援オフィス、教務課である。主に生活支援に対応しているのが学生課である。また、主に進路支援に対応しているのがキャリアセンターである。

以下、それぞれの支援分野ごとに具体的な取り組みを記述する。

<学生の修学支援に関する適切な支援の準備>

① 学生の能力に応じた補習教育、補充教育

学習支援オフィス・総合学習支援センター（SPACE）では、学生向け窓口サービスとして

- (1) 学習・履修相談（ヘルプ・デスク対応）
- (2) 数学チュータリング（ヘルプ・デスク対応・予約制）
- (3) シェア・タイム（Share Time）（ラーニングアリーナの活用）
- (4) 学習セミナー（タイムマネジメント等、大学適応・学習スキル系講習）などを実施している。

また、学生向け特別プログラムとして、スマートリーダーシップ受講生など、シニア SA 候補への課外（授業外）トレーニングの提供を行っている。また、ライティングセンターで

は、特別センター員を配置し、レポート診断、レポートチュータリングを行い、利用者データの分析・活用も実施しているほか、学習セミナー（ライティングに関する講習）や図書館とのコラボレーションイベントも行っている。

オアシス・プログラムでは、心理的支援・対人援助の資格を持つ担当者が、学生の支援ニーズに沿ったサポートを行っている。定期的な面談を通して、学生の学習意欲と自己管理能力の向上を促している。そこでは

(1) 学習・履修相談として、

1. 学期初め履修相談（シラバスの活用方法、1週間の授業の組み立て方などのアドバイス）、
2. なんでも相談（大学生活を送る中で生じる悩み、疑問について、話を聞き相談に乗る）、
3. レファレンス・サービス（専門スタッフが文献検索の方法についてアドバイスを行う）を実施している。

(2) 数学チュータリングでは、授業でわからないことや、SPI の数学問題対策、その他、簿記や統計の質問への対応も行っている。

(3) その他、以下のような学習セミナーを行っている。

- ・超初歩から教えます！ポータルサイトの使い方・メールの送り方
- ・論じなさい？まとめなさい？ 中間レポート必勝法
- ・パソコン苦手大歓迎！理系学生が伝授！ IT を駆使したスマートな学生生活（初編）
- ・レポートの書式がよく分からない…… ワードの使い方
- ・君は4年間をどう過ごす？ 圧倒的に差がつく大学生活4年間の過ごし方
- ・レポートの参考文献が見つからない…「参考文献を探そう！」
- ・Do you want to study abroad? 「交換留学必勝講座」
- ・楽しく安全に SNS を使うために…「見直してみよう！LINE や Twitter の設定」
- ・長距離通学のプロ（自称）が教える！「長距離通学・虎の巻」

② 正課外教育

本学では、豊かな人間性を形成するため、寮生活やクラブ活動、ボランティア活動に注力している。学生寮においては、7つの学部寮と3つの国際学生寮を整備している。主に1年生の6割近くが寮生活を送っている。留学生と日本人学生が混住する国際学生寮では、異文化理解を促進できるよう、レジデント・アシスタント制度を設け、寮生が安心して生活できるよう、学生によるサポート体制が敷かれている。

クラブ活動においては、学友会の中に、体育会、学術局、文芸局の3つの体制で100団体を超えるクラブが活動を行っている。クラブへの登録学生数は全学生の50%を超えている。

それぞれのリーダーに対して、スマートリーダーシップ講座を開講するなど、サポートを行っている。

③ 障害のある学生の状況把握と修学支援

本学では、学生課を窓口として以下のような支援を行っている。

- ・バリアフリー委員会の設置

バリアフリー委員会（全学協議会の下部組織）のもと、キャンパスのバリアフリー化を検討、推進している。

- ・障がいのある学生への支援、合理的配慮の申請

学生部が主管となり、学生からの要望に応じて、授業等における合理的配慮の申請を行っている。2019年度春学期には40件を申請。また、授業における支援として、学外委託業者と提携し手話通訳士、ノートテイクの派遣を依頼している。

- ・学生相談室との連携

障害のある学生に対して、学生部と学生相談室とが連携し、学生の課題の解決に向けた取り組みを行っている。

- ・保健センターとのカンファレンスの実施

学生課、学生相談室、ホケンセンターが協働し、障害学生に対するカンファレンスを開催し、計画的なサポートの実施を行っている。

④ 成績不振の学生の状況把握と指導

教務課では、留年者や退学希望者といった学習の継続に困難を抱える学生への対応として、GPA2.0未満者の把握を行っている。成績不振者には、学部の教員、学部事務室との連携により、アドバイザー教員、学部長で等面談を実施している。

また、初年次教育推進室と連携し、入学の早い段階で授業の欠席が重なるメンバーの把握と対応を行っている。

⑤ 留年者及び休学者の状況把握と対応

留年者について、その在学状況・単位修得状況を一覧化し、教務委員会に報告し、該当学部と共有している。休学者については、手続き時に学生部員会・学部教授会に報告し、履修指導等に活用している。

⑥ 退学希望者の状況把握と対応

退学希望者について、個々の状況を確認し、修学のある場合、今後の履修計画の策定や、再入学制度の説明、または通信教育部への転籍制度について説明を行っている。

⑦ 奨学金その他の経済的支援の整備

- ・授業料減免・大学独自の奨学金

学部生の給付型奨学金として、「創価大学給付奨学金」(学費減免)、「創価大学創友給付奨学金」、「創価大学牧口記念教育基金会学部生奨学金」、「創価大学牧口記念教育基金会看護学部生奨学金」、「創価大学の入学者に対する入学金等の免除(創価大学特別奨学生)」「創価大学特待生」、「創価大学授業料減免」がある。

授業料減免奨学金は、家計支持者の死亡・疾病や火災・地震・台風等の災害といった突発的事由による経済的変化のために学業の継続が著しく困難となった学生を対象に、授業料減免の実施に関する内規で定めている基準に従い、当該年度に限り、授業料等の全額、半額、4分の1免除を行う制度である。

その他、派遣留学生を対象とした「学校法人創価大学交換及び認定留学生等奨学金」、文学部で実施しているデュアル・ディグリーコースで派遣される交換留学生に対しては助成金を給付している。

受け入れ交換留学生を対象に本学独自の給付型奨学金制度を設けている。「創価大学牧口記念教育基金会留学生奨学金」、「学校法人創価大学外国人留学生奨学金」「創価大学私費外国人留学生授業料減免」制度もある。

創価大学ティーチングアシスタント（TA）制度があり、大学院学生を対象として時給1000円で年間200時間までの採用としている。

専門職学位課程の法務研究科（法科大学院）の学生を対象とする奨学金は、本学独自の給付奨学金制度として、「創価大学法科大学院給付奨学金」、「創価大学法科大学院法曹会奨学金」、創価大学法科大学院牧口記念教育基金会奨学金」があり、貸与奨学金として、「創価大学法科大学院貸与奨学金」がある。

教職研究科（教職大学院）の学生を対象とする奨学金は、本学独自の給付型奨学金として、「創価大学教職大学院給付奨学金」「創価大学教職大学院特別奨学金」、「創価大学教職大学院牧口記念教育基金会奨学金」がある。

学外奨学金には、日本学生支援機構奨学金、その他、地方公共団体や民間団体の奨学金があり、申請支援を行っている。

<学生の生活に関する適切な支援の実施>

① 学生の相談に応じる体制の整備

本学では学生相談室を設置し、平日10時～16時30分の時間帯に、常時6名のカウンセラーを配置してサポートを行っている。

学生相談室では、学生がかかえる諸問題について相談に応じ、必要な助言、指導及びカウンセリングを行うことにより、学生の充実した生活に資することを目的として設けられ、学部生・院生等の学生生活・対人関係・メンタルヘルスに関する相談、グループワーク等に取り組むとともに、学生対応に困難を抱える教職員・保護者へのコンサルテーションも実施している。「学生相談室パンフレット」「うつ状態の理解と対応 気分が落ち込んでいる人が周りにいたら」を作成・配布している。

2018年度より英語対応可能なカウンセラーを2名配置し、留学生の相談に応じている。

学生の相談に応じる体制の整備の中のメンタル関連に「メンタルヘルス・セミナー」を毎年6月、10月、3月の年3回開催している。特に3月開催のセミナーでは、クラブ、寮、各種団体の執行部の学生を対象に後輩の面倒をみる側のメンタルヘルス・セミナーを開催している。

「学生部」「学生相談室」「こころ元気科」の連携についても、年数回の会議を開催している。学生相談室ではケースカンファレンスや年2回学内・学外講師を招聘し事例検討会を実施、カウンセラーの自己啓発にも努めている。

2019年度新入生に対して、初年次セミナー（春学期）において学生生活ポリシーガイダンスを実施している。そこでは、消費者教育セミナー、学生生活ガイダンスのほか、ストレスマネジメントセミナーとして、学生相談室カウンセラーによるセミナーを行った。

② ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備

キャンパス・ハラスメント防止ガイドラインの制定

本学では、「キャンパス・ハラスメントの防止及び対策に関する規程」「キャンパス・ハラ

メント防止ガイドライン」を定めている。そこで設置されているキャンパスハラスメント対策室には、相談員として教員 9 名と職員 13 名の 22 名を選任し、相談にあたっている。

専任教職員対象の FD として、本年 10 月、11 月に同じ内容で 2 回、外部講師を招き「キャンパス・ハラスメント防止研修」を開催し、教職員のおおよそ半数が参加した。

「キャンパス・ハラスメント防止ガイドライン」のパンフレットを作成し、新入生対象の学生生活ガイダンスにおいて配布し、理解を深めるための説明を行っている。また、大学ホームページにも掲示し意識啓発に努めている。教員に対しては、「新任教員オリエンテーション」などの機会を通じて周知をしている。

また、2019 年度より新入生に対して、初年次セミナー（春学期）において学生生活ポリシーガイダンスを実施している。講義の中でキャンパス・ハラスメント防止に対する大学の取り組みを紹介し、注意を喚起している。

③ 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮

保健センターでは、全学生を対象として健康診断の実施と事後対応、健康相談、救急処置にあたるほか、感染症疾患の予防と対応、医師の処方のもと希望者には禁煙支援、禁煙相談などを行っている。新入生を対象とした学生生活ガイダンスでの健康セミナー、男女各学生寮での健康セミナーの開催など、健康教育も実施している。

保健センター内に「こころ元気科」を置き、精神科医師の判断により必要に応じて学生を医療機関へと繋ぐ体制を構築している。女性専門外来も保健センター内に設置して対応している。

④ 留学生の多様なニーズへの支援

人種・宗教・習慣・文化・言語等が異なる留学生を支援するため、本学では礼拝所の設置、学内売店でのハラルフードの提供などを行っている。また先述のこころ元気科には、現在 2 名の英語対応可能なカウンセラーを配置し、留学生の心身の健康促進にも配慮している。

<学生の進路に関する適切な支援の実施>

① 学生のキャリア・就職支援を行うための体制（キャリアセンターの設置等）の整備

本学ではキャリアセンターを設置し、学生のキャリア・就職支援を行っている。1 年生から 4 年生までの各学年にあわせたキャリア教育科目を開設し、正課内外のキャリアサポートを充実させて、学生のキャリアに対する意識を高めている。

2019 年度にはキャリア教育科目を担当する専任教員（学士課程教育機構所属）が本学で初めて就任し、キャリア教育科目を担当し、キャリア教育の充実をはかっている。

また、就職活動においてインターンシップの重要度が高まる中、インターンシップの準備を自己分析や業界研究を通して学べる科目（キャリアビジョンⅡ）を 2019 年度に開設し、約 1,000 名が履修した。

② 進路選択に関わる支援やガイダンスの実施

多様な学生の状況に応じた個別の進路相談、キャリアガイダンス（1、2 年生対象）や就職ガイダンス（3 年生対象）等を実施し、進路選択に関わる支援を行っている。

学生の進路相談は専任職員の他、キャリアカウンセラーを企業からの派遣や業務委託で受け入れ、体制を強化しながら対応している。また、多様な学生の状況に対応するため、専任職員の面談スキルの向上、知見を深めることを目的として、資格取得や研修参加を推奨している。また、他部署（学生部、教務部、国際部など）と連携し、情報共有、情報交換に取り組んでいる。

国家試験、公務員試験、教員採用試験や各種資格試験の合格を目指す学生に対して支援を行っている。学生の進路にあわせて（例えば、公務員は行政教育センター、教員は教職キャリアセンター）、進路・就職の支援を行っている。また、キャリア委員会を開催し、各学部の教職員の代表、各センターの代表が委員となり、学生の進路・就職に関する協議、情報の共有を行っている。

在学生によるピアサポート、卒業生によるサポートを通じて、就業力の強化、進路支援の拡充を行っている。キャリア・就職のサポートでキャリアサポートスタッフ（CSS）やリクルートサポートスタッフ（RSS）、公務員志望者のサポートでパブリックサポートスタッフ（PSS）等、進路・就職が決定した4年生の学生が正課の授業や正課外の講座などでピアサポートを行っている。2019年度は9月に結成し、卒業までの半年間活動を行っている。卒業生も正課の授業の講師、正課外の講座の担当として招聘し、現役学生のサポートにあたっている。

2019年度より就業力テストを「SOKA Generic Skill テスト」に名称変更し、引き続き、1年生と4年生を対象に実施している。また、テスト結果をもとに分析を行い、全学、各学部に情報を提供している。

③ 外国人留学生のキャリア・就職支援

キャリアセンターでは、外国人留学生のキャリア・就職支援を行っている。外国人留学生の増加に伴い、これまで外国人留学生向けのキャリア科目（日本語版4科目、英語版1科目）を開設し、日本語・英語によるインターンシップも整備してきた。2019度は授業内で民間企業とタイアップした学内インターンシップを実施し、日本で就職を目指す留学生の就業力の向上をはかっている。

<学生の正課外活動を充実させるための支援の実施>

本学では正課外活動を充実させるため、クラブ活動、寮生活における学習成果の測定を行っている。

① クラブ活動におけるラーニングアウトカムズ自己評価アンケートの概要は以下のとおりである。

1. 目的 クラブにおけるラーニングアウトカムズの効果測定を行うために自己評価アンケートを実施した。
2. 調査方法 Google フォームによりアンケートを実施した。クラブにおける教育目標の各項目について、5段階の自己評価を求めた。
3. アンケート概要

2019年度アンケート実施期間

第1回アンケート・・・2019年5月～7月

第2回アンケート・・・2020年2月

調査対象

2019年度クラブ所属学生（春学期時点）：約3000名

回収状況

第1回アンケート・・・565名（18.8%）

アンケート結果

第2回アンケートを回収し次第、分析を開始する。

② 学生寮におけるラーニングアウトカムズ 自己評価アンケート概要

1. 目的 学生寮におけるラーニングアウトカムズの効果測定を行うために自己評価アンケートを実施した。

2. 調査方法

Google フォームによりアンケートを実施した。学生寮における教育目標の各項目について、5段階の自己評価を求めた。

3. 2018年度アンケート概要

アンケート実施期間

入寮時アンケート・・・2018年7月

卒寮時アンケート・・・2019年1月

調査対象

入寮時アンケート・・・全寮生1,144名 [男子641名、女子503名]

卒寮時アンケート・・・全寮生1,232名 [男子673名、女子559名]

回収状況

入寮時アンケート・・・625名（54.6%） [男子357名（55.7%）、女子268名（53.2%）]

卒寮時アンケート・・・324名（26.3%） [男子152名（22.6%）、女子172名（30.8%）]

アンケート結果

※現在分析中。学生寮における教育目標の各項目について、自己評価5段階別の割合を算出し、入寮時と卒寮時を比較する。

2019年度自己評価アンケート

アンケート実施期間

入寮時アンケート・・・2019年6月

卒寮時アンケート・・・2020年1月

調査対象

入寮時アンケート・・・全寮生1,182名 [男子635名、女子529名]

回収状況

入寮時アンケート・・・648名（54.8%） [男子357名（56.2%）、女子291名（55.0%）]

アンケート結果

卒寮時アンケートを回収し次第、分析を開始する。

<その他、学生の要望に対応した学生支援の適切な実施>

① 多様な性のあり方への理解について

「性的マイノリティ」についての理解増進のための取り組みを学生生活ハンドブックに掲載している。相談について、具体的な対応についても記すとともに、氏名、性別の変更や学内文書や証明書等から性別欄を削除するなどの対応を行っている。2020年公表に向けて、「多様な性のあり方に関する基本方針」の策定を進めている、

② 留学生への支援について

本学では創立50周年(2020年)を目指して策定されたグランドデザインに基づき、より多くの留学生を迎え、留学生への教育サポートのいっそうの充実を期して2011年に「日本語・日本文化教育センター(以下、日日センター)」を設立した。

日日センターでは、交流大学からの交換留学生と学部・大学院への進学を希望する留学生、さらには科目履修を目的とするノンディグリー留学生、また海外の大学からの短期日本語研修生を受け入れている。留学生の多様なニーズに応えるため、日本語科目、日本文化体験科目を提供するとともに、日本語ならびに英語で開講されている学部の専門科目、共通科目の履修をサポートしている。

また、2014年度に開設された国際教養学部や、2018年度から他学部にてはじまったEnglish Medium Programなど、英語のみで本学を卒業できるコースが充実してきたことにより、日本語を学ぶ必要のない学生が在学するようになった。その学生に対し、日常的な日本語会話を学べるプログラムも行っている。なお、日日センターで設置している課程は、以下2課程になる。

① 日本語研修課程

日本語研修課程は、本学の経済学部、経営学部、法学部、文学部、教育学部、理工学部に進学を希望する学生が必要な日本語を習得する課程。学生の日本語レベルに応じて、1年間の日本語学習を行い、学部での講義を受講できるだけの日本語能力を養うことを目的としている。

② 特別履修課程

特別履修課程は、創価大学で開講している専門科目および共通科目を受講することを希望する外国人学生を受け入れる課程。外国人学生用に開講している日本語科目はもちろん、語学力に応じて日本語や英語で教授する専門科目の履修も可能。在籍期間は、1学期ごととなり、最長1年間まで在籍することができる。

点検・評価項目③： 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価

評価の視点2：点検・評価結果に基づく改善・向上

<学生支援の点検・評価・見直し>

学生支援を実施する各課では、関連する委員会において実施状況を報告するとともに、点検、見直しを行っている。主な委員会は以下の通り。

- ・学生の修学支援 学士課程機構運営委員会
- ・障害学生の状況把握と修学支援 学生部委員会、教務委員会
- ・成績不振、留年・休学者対応 教務委員会
- ・経済的支援の整備 学生部委員会
- ・学生生活支援の実施 学生部委員会
- ・学生の相談に応じる体制の整備 学生相談室運営委員会
- ・心身の健康、保健衛生配慮 保健センター運営委員会
- ・学生の進路支援 キャリア委員会
- ・学生の正課外活動支援 学生部委員会
- ・留学生に対する修学支援 留学生教育支援委員会

<長所・特色>

- ・総合学習支援センター（SPACE）の取り組みは学生間にも定着し、SPACE を利用する学生が増えている。
- ・成績不振者、留年、休学する学生に対する支援について、引き続き、学生部委員会、教務委員会、学部教授会での情報共有と学業指導の充実を図り、あわせて初年次教育推進室や IR 室と連携し、支援の在り方を検討していく。
- ・学生相談室はカウンセラーの配置も充実し、利用しやすい環境が整っている。初年次セミナーでのメンタルヘルスセミナーを 2020 年度も実施が決定するなど、予防教育にも力を入れている。
- ・障害のある学生に対する合理的配慮について、今年度は関係部署間での連携や研修会を実施してきた。加えて、障害学生支援検討委員会を設置し、大学としての支援方針や支援実施概要を検討していくこととなった。
- ・経済的支援については、修学支援新制度の導入により、独自の奨学金の見直しを行うなど、支援の充実が図られている。
- ・学生の進路に対する支援については、2019 年度よりキャリア教育分野に専任教員を配置するなど、これまでの体制からの充実が図られている。
- ・クラブ活動や寮生活等の正課外活動に対する支援については、ラーニングアウトカムズを策定し、到達目標を明示するとともに、自己評価アンケートを実施し、課題発見およびその改善に向けた取り組みを行っている。

<問題点>

- ・障害のある学生に対する支援体制の確立が必要である。生活支援と学修支援、さらには進路支援へとつながるよう各課との連携が求められている。体制が確立していくことで入学前の受験生に支援の様子を伝えることができる。
- ・最近では身体障害以上に、精神障害や学習障害の可能性を持つ学生が増えていると感じる。しかし、それに対応すべき人員の確保ができておらず、総合学習支援センターで行っているオアシス・プログラムについても、人手不足のため、現在は木曜日を除く平日の午後の時間帯しか対応ができていない。体制の拡充は喫緊の課題であると感じる。（斎藤）
- ・修学支援においては、初年次教育推進室や IR 室を中心に、成績不振学生やそのリスクの

ある学生の状況について把握を行っている。その中で、成績不振の一因と考えられる、精神障害や学習障害の可能性を持つ学生への対応として、総合学習支援センターではオアシス・プログラムを提供している。オアシス・プログラムでは対人支援の資格を持ったスタッフが、学生の状況に応じた支援を行っているが、年々、その数も増えており、スタッフ体制の強化を行う必要がある。

・進路支援においては、2018年10月、日本経済団体連合会より「採用選考に関する指針」について、2021年3月卒業の学生から廃止するとの意向の表明があり、企業の採用活動の早期化が懸念されている。どのような状況になろうとも学生が対応できるようにキャリア教育の充実をはかる必要がある。

・留学生人数の増加に伴い、学びの形態も多種多様となった。英語のみで卒業できる学部コースや、大学院などへの入学者も増え、日本語能力が高くない学生の対応として、対応する部署での職員の英語能力が問われるようになった。●●年に●名だったTOEIC730点以上を取得した職員数は、2020年には●名に増加したが、全ての対応部署に配置できるまでには至っていないため、今後も職員に対する言語教育の充実をはかる必要がある。

<全体のまとめ>

・学生支援ポリシーのもと、各課が様々な取り組みを通して学生支援にあたっている。

・修学支援においては、総合学習支援センター（SPACE）を中心に、ラーニングcommons SPACEにおいて、先に述べたような様々なサービスを提供している。

SPACE内で行っているHelp Deskサービスには、学習相談、学習セミナー、オアシス・プログラムなどがあるが、どのサービスもおおむね好評で、特に入学直後の新入生にとっては、履修に関する相談などは有効に機能しているといえる。

今後は、他部署とも連携を密に取りながら、オアシス・プログラムのようなより専門性の高い修学支援も強化していきたい。

・生活支援においては、修学支援新制度への対応と合わせて、より多くの学生の支援が実現できるよう、本学独自の給付型奨学金を拡充している。

障害のある学生への支援については、体制づくりや関係各課との連携強化という課題はあるが、実際の学生サポートを通じて、綿密なコミュニケーションが図られており、今後、より充実した支援体制を目指したい。

・進路支援においては、正課内外のキャリアサポートを充実させて、学生のキャリアに対する意識を高め、学生の未来をきり拓いていきたい。